

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
8 桑名市	対談項目1 子育て少子化対策 (本市独自の子育て支援施策について)	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策は桑名市だけでなく、全国的な大きな課題と考えており、三重県立桑名北高校と連携した「わくわくコミュニケーション事業」で年に20回程度、1対1で高校生と幼児がふれあう体験を実施している。 ・地域のコミュニティーが希薄になり、世代間で交流することが少なくなった中で、高校生が親の体験をすることは重要と考えている。 ・また、中学生の「わくわく子育て体験事業」でも親になる前に赤ちゃんをだっこするなど、体験を通じた取組がとても大切と考えている。 ・この取組を広く情報発信をして、県内で水平展開してほしい。 ・住みたいまち、住み続けたいまちとするため、「子育てができる環境が整っている」、「しっかりした教育の場がある」、「働く場所がある」の3本セットで取り組んでいきたい。 ・子育てをしやすい三重県であることのPRと一層の施策推進を県と連携して進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、お父さん像、お母さん像をもてる大変良い機会になっている。また、子育ての大変さを超えた楽しさ感、幸せ感を実感できる良い機会にもなっている。 ・生徒に人生に対するリアリティー(現実感)が芽生え始めた頃に、子どもと接することは子育ての楽しさや喜び、家族形成に希望がもてる良い取組と思う。 ・県民意識調査においても理想の子どもの人数と現実の子どもの人数には1人のギャップがあり、このギャップを解消していくために、ライフステージごとのライフプラン教育や子育て家庭への支援などの少子化対策事業を行っている。 ・国の地域少子化対策強化交付金を活用して、県と県内29市町で実施している少子化対策等の取組を県内外に情報発信することとしている。また、4月に開設した移住相談センターの取組の中でも、空き家情報だけでなく、子育てがしやすい環境や働く場などをパッケージで示している。子育て環境が整備されていることは、移住促進のためのアピールポイントになり、自然減と社会減の両方に歯止めをかけることにつながる重要な施策である。 ・高校生2年生を対象としたアンケートで「最終的に三重県に住みたい」が81.5%である。学びたい、子育てしやすい環境があることは若い人にとって重要な要素であり、その思いを実現できるようにともに頑張っていきたい。
桑名市	対談項目2 障害などの早期発見・早期支援に向けて (発達障害のある幼児・児童・生徒に対する支援について)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に約1割の子どもが発達障害を持っているといわれており、発達障害の子どもが増えていることは身近で大きな課題と考えている。 ・早期発見、早期対応が重要と考えており、県のあすなろ学園ほかの取組には感謝している。 ・早期発見の仕組みはできているが、早期対応への移行は難しい。そのため、放置されるケースもあり、親にどう理解していただくか、伝えるかに苦慮している。 ・発達障害という言い方を変え、多動症など親が受け入れやすい言葉の使い方も大切と考えている。 ・また、子ども相談センターの専門の方から親に伝えるなど、親の受け入れ抵抗感を上手く拭いていく必要があると考えている。 ・「チェックリスト・イン・三重」は良くできているが難しいという意見もある。シンプルなものに改善していただく余地はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①早期発見し、②親にどう伝え、③伝えした後、切れ目のないサポート(伴走型の寄り添い支援)を行うことが大事である。 ・専門的な知識を持った「みえ発達障がい支援アドバイザー」など信頼関係のある人から家族の状況に応じて対応していく必要があると考えている。 ・同アドバイザー育成のための研修には桑名市からも2名の職員を派遣していただいたところであるが、半年の研修、出前研修もあるので桑名市もご活用いただき、人材を増やしていただくよう、県も協力する。 ・発達障がい児に対する支援ツール「チェックリスト・イン・三重と個別の指導計画」で早期発見する仕組みを構築し、その活用の普及を図っている。 ・また、チェックリスト・イン・三重については、一定の根拠に基づいて判定できる部分は担保しつつも、簡単に取り組めるよう改善していく。 ・親の抵抗感が少なくなるような名称について、研究していく。 <p>・幼→小、中→高といった切れ目でも継続した支援を進めていくことが課題であるが、親が所持しているパーソナルカルテなども活用し、ひとりで抱えこまないように対応していきたい。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
桑名市	対談項目3 公民連携について (公民連携を視野においた行財政改革の取組について)	<ul style="list-style-type: none"> ・ PPP手法 (パブリック・プライベート・パートナーシップ) などを活用し、市民サービスを提供する取組を、公民連携元年として取り組んでいる。 ・ 過去にPFI手法で図書館を整備した実績はあるが、①税金を投入しないのでできる考え方、②公共施設を使って民間に稼いでもらう公民連携もある。 ・ 桑名市多度町の健康増進施設の整備にあたっては、税金を使わずに、市の土地を使って市民を健康にする事業を行うこととしており、現在、民間事業者からの提案募集をしているところである。(今後、公民連携の提案窓口をつくる予定もある。) ・ 地元の事業者に理解していただけないところも多く、県全体に考え方を浸透させて進めていければと思う。 ・ 役所だけでなく、より多くの人に担い手になっていただき、桑名を元気にする視点から協創は考え方も近いと思うので、県とともに前に進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間事業者は果てしなくアイデアをもっている。横須賀市では子どもが家庭的な環境で育っていくことができるよう、特別養子縁組の推進にソーシャル・インパクト・ボンドを活用してマッチングと特別養子縁組後の親子の支援に取り組んでいる。豊富なアイデアをもとに、こうした取組を進めていくことは重要と考えている。 ・ 現在、行財政改革プランのリニューアルの議論をしている。公民連携の視点についてもこのプランの中に盛り込んでいきたい。